

事業群評価調書(平成30年度実施)

基 本 戦 略 名	10 にぎわいと暮らしを支える社会基盤を整備する	事業群主管所属	土木部道路建設課
施 策 名	(1) 九州新幹線西九州ルートなどの人流・物流を支える交通ネットワークの確立	課 (室) 長 名	大塚正道
事 業 群 名	③ 生活に密着した道路の整備による道路ネットワークの拡充	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)						(取組項目)				
昨今の道路整備には、異常気象や少子高齢化、さらには、道路構造物の老朽化など多様な対応が求められています。このため、県民の安全で安心かつ快適な暮らしを確保する県道の整備や防災対策、交通安全対策、交通円滑化対策、沿道環境・景観対策、長寿命化対策など生活に密着した道路整備を計画的に推進します。						i) 県道の整備促進				
事業群	指 標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) ・公共事業、単独事業ともに早期に事業の効果を発現できるように部分的な供用開始に努めており、H29年度までの供用延長は目標を上回る結果となっている。
	県道の供用延長(累計)	目標値①		6.1km	9.2km	15.7km	29.5km	37.3km	37.3km (H32)	
		実績値②	—	7.1km	12.8km				進捗状況	
		②／①		116%	139%				順調	

2. 29年度取組実績(H30新規・補正は参考記載)

事業 番号	取組 項目	事務事業名	事業 期間	事業費（単位:千円）			事 業 概 要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					29年度事業の成果等	中核 事業
				H28実績	うち 一般財源	人件費 (参考)	事業対象	29年度事業の実施状況 (30年度新規・補正事業は事業内容)	指標	主な目標	H28目標	H28実績	達成率		
				H29実績							H29目標	H29実績			
				H30計画							H30目標				
1	取組 項目 i	道路整備事業（公共）	H28-32	11,785,800	269	-	道路利用 者	「地域をつなぐ道路ネットワークの整備」のため、 国県道の整備を国庫補助金で実施した。	活動 指標	事業箇所数（箇所）	51	51	100%	・(国)382号（大地バイパス）、(国)384 号（三日ノ浦バイパス）について供用を 開始した。 ・現道拡幅である(国)207号（佐瀬拡 幅）、(国)499号（岳路拡幅）等は一部 供用開始を行い早期効果の発現を図つ た。	○
				12,109,556	252	-					48	48	100%		
				12,854,831	384	-					56				
			道路建設課					成果 指標	整備延長（km）	5.5	6.3	114%	5.9	5.4	91%
										7.3					
2		道路整備事業（単独）	H28-32	3,327,162	460	72,272	道路利用 者	「地域をつなぐ道路ネットワークの整備」のため、 国県道の整備のうち、短区間の視距改良や路肩 拡幅等の小規模な整備を県単独事業で実施し た。	活動 指標	整備延長（km）	0.5	0.8	160%	・(主)野母崎宿線（網場～千々工区）と (一)喜内瀬鍋串辻線（里工区）につい ては、一部供用開始を行い幅員狭小箇 所や線形不良箇所が解消された。 ・交通支障箇所数については、地元調 整に時間を要し、工事の進捗が図れな い箇所があったため、達成率が低い結 果となった。	
				2,415,846	350	91,842					0.6	0.4	66%		
											0.2				
			道路建設課			2,498,257	374	82,425	成果 指標	交通支障箇所数の解 消（箇所）	22	23	104%	22	12
										22					

3	取組項目 i	道路改良調査費	H28-32	38,922	38,922	1,091	道路利用者	今後の新規事業箇所において、必要性の整理やルートの検討、現地調査等を行なうことで、計画的な整備を行なうとともに、事業化後の問題点解消を図った。 また、供用開始した道路において交通量調査等を実施し、整備効果の検討を行った。	活動指標	事業箇所数(箇所)	6	6	100%	・他事業や関係機関との調整が済んだ箇所について、新規箇所の事業化を図ることができた。		
				3,511	3,511	1,728			2	4	3	75%				
		道路建設課	31,195	31,195	1,599	成果指標	新規箇所数(箇所)		4	5	125%					
									1	14	1400%					
									3							
4			みちづくりスクラム事業費	H27-	11	11	0	道路利用者(対馬市)	重要な幹線道路ネットワークのうち、代替となる市町道の整備を支援することで、地域振興や防災機能向上等を支援した。	活動指標	事業箇所数(箇所)	1	1	100%	・H29年度は、起点側の工事に着手した。	
					11	11	0			1	1	100%				
	道路建設課		278	278	0	成果指標	道路進捗率(%)	11.6		4.6	39%					
								6.1		6.0	98%					
								7.3								

i) 国県道の整備促進

- ・公共事業、単独事業とも道路改良調査等を活用し、早期に効果が発揮できるように一部供用を開始を行っており、H29年度までの供用延長は目標値を上回る結果となった。しかし、単独事業の供用延長や交通支障箇所の解消については、目標に対して下回る結果となったため、用地取得に努め事業の進捗を図る。
- ・道路改良調査については、地元調整が整わなかった箇所について変更となったが、道路整備が全国に比べて遅れている状況であり、今後も計画的な新規事業化が必要不可欠であることから、引き続き調査を実施し事業の必要性や整備の優先順位を行なっていく。

- ・平成29年度から工事に着手しており、今後は工事推進のために必要な予算の確保が課題であることから、補正予算及びH31要望にて積極的に要望できるように指導を行っていく。

4. 30年度見直し内容及び31年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	30年度事業の実施にあたり見直した内容 (H30の新たな取組は「H30新規」等と記載、見直しがない場合は「－」と記載)	31年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
2	取組項目1	道路整備事業(単独)	用地取得状況を勘案しながら全体的な整備の優先順位を精査し、道路整備を推進する。	①	交通支障箇所はまだ多く存在することから、今後も計画的に事業を推進するため用地取得を図っていく。 地元調整を円滑に進めていくために、市町との連携強化に努めていく。	改善
3		道路改良調査費	—	①	道路整備が全国に比べて遅れている状況であり、今後も計画的な新規事業化が必要不可欠であることから、事業の必要性や整備の優先順位を行なっていく。	現状維持
4		みちづくりスクラム事業費	—	⑤	工事推進のために必要な予算の確保が課題であることから、補正予算及びH31要望にて積極的に要望できるよう指導を行っていく。	現状維持

注:「2. 29年度取組実績」に記載している事業のうち、H29年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。

② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。

③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。

④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。

⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。

⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。

⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。

⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。

⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。

⑩ その他の視点